

都民共有の貴重な財産である森林を、健全な姿で次世代に継承するには、持続的な森林整備が不可欠ですが、行政や林業に関わる主体の取組だけでは対応できる範囲に限りががあります。

そのため、森づくりへの参画についてニーズの高い、都民や企業等が幅広く森林整備や木材利用に関わることができる機会を創出し、東京の多様な主体と協働して森づくりを進めていきます。

## 都民や企業等との協働における基本的な考え方

- ◎ 人口が多く、企業やNPO、大学、研究機関等が多数存在する東京の利点を十分に活用し、多様な主体が協働した森づくりを展開していきます。
- ◎ 森林の有する様々な機能が都民生活に貢献していることから、都民等に対し、森づくりに参画する必要性とメリットを分かりやすく示し、都民等の積極的な参画を推進します。
- ◎ 資金面での支援に加え、企業等が有する技術や施設の活用など、様々な形での支援を受け入れる仕組みを構築し、民間の力を一層活用した協働による森づくりを進めます。

〈社員等による「企業の森」における植栽〉



〈東京マラソンチャリティの寄付金を活用した「東京マラソンの森」〉



# (1) 都民や企業等の要望に応えた仕組みの構築と多様化

## 取組方針

日常的に森林に接する機会の少ない都市部の居住者への情報提供を進めるとともに、実際に森林を訪れやすくなるような施策を展開し、都民に森づくりへの参画を促します。

また、企業等の森づくりに対する要望は多岐にわたることから、幅広い要望に応えられる仕組みを構築し、より多くの企業等による森づくりへの参画を進めます。

## 具体的取組

### ○ 都市部住民への情報提供

- ・森林が身近にない都市部の居住者に、森林や林業、木材に関心を持っていただけるよう、多摩の観光や森林・木材に関するウェブサイトを活用するほか、都市部開催のイベント等により情報提供を進めます。
- ・観光業等と連携し、森林そのものに加え、林業体験や木工教室などを観光資源として積極的に活用するほか、林道の観光利用を図ります。

### ○ 「とうきょう森づくり貢献認証制度」の充実

- ・制度の一層の普及を図るとともに、社会情勢の変化や企業等の要望に応じて、利用しやすい制度への改正を検討するなど、企業等と協働した森づくりを促進します。

### ○ 企業等からの支援の拡大（再掲 P34）

- ・スギ花粉発生源対策の「企業の森」について、伐採後の植栽や下刈だけでなく、伐採搬出など他の施業も支援の対象とするなど、企業等が参加しやすいよう拡充します。
- ・間伐や奥山の針広混交林化など、現行の企業の森では対象としていない施業への支援を受け入れる仕組みを構築します。
- ・企業等に、森づくりという環境貢献活動を、一過性のイベントとしてではなく長期にわたって取り組んでいただけるよう働きかけていきます。

### ○ 都民の森づくりへの参画を促進

- ・伐採跡地における植栽や保育の経費を都民に負担していただく、企業の森の都民版といった仕組みを構築し、都民と協働した森づくりを進めます。
- ・木材利用により森林の循環が進み、森づくりに貢献することを積極的にPRします。

## (2) 多様な主体との協働による森づくり

### 取組方針

東京の森林を保全していくには、森林所有者をはじめ、都民、企業、大学、NPOなどの多様な主体による協働の取組が重要です。そこで、募金による森林整備への資金提供やボランティアへの参加に加え、それぞれの得意な分野や技術、施設等を活かして森づくりに関われるよう施策を展開します。

### 具体的取組

- 「花粉の少ない森づくり運動」の推進
  - ・「花粉の少ない森づくり募金」や「企業の森」、多摩産材の利用促進などの「花粉の少ない森づくり運動」をさらに展開し、都民・企業等との協働によるスギ花粉発生源対策を推進します。
- 植栽や保育におけるコスト削減の検証（再掲 P41）
  - ・コンテナ苗の導入や下刈回数の削減など、伐採搬出以外の様々な場面におけるコスト削減について、林業事業者や研究機関、大学等の多様な主体と連携して検証します。
- 製品開発の推進（再掲 P52）
  - ・企業や研究機関等の多様な主体との連携により、実用化が期待できる多摩産材を利用した製品開発を推進し、多様な木材利用につなげます。
  - ・製品化に当たっては、木材の様々な特性や良さをきめ細かくPRするとともに、デザイナーなど異業種との連携により、付加価値の向上を図ります。
- 森林ボランティア活動の実施
  - ・主伐事業の跡地などで行う植栽や保育等の施業において、都民がボランティアとして参加しやすい仕組みを構築します。
  - ・花粉の少ない森づくりに賛同していただいた都民が、植樹等の森林整備を行える機会を設けます。
  - ・森林ボランティアを育成するため、NPO等との協働により、講習会等を開催します。
  - ・都有保健保安林における間伐等の森林整備について、森林ボランティアを活用します。
- 協働の拠点の設置
  - ・森林や林業に関わる都有施設について、都市と山村が交流し、地域の活性化につなげていけるよう、都民が森林・林業と接することができる協働の拠点としての活用を検討していきます。

## 「花粉の少ない森づくり運動」の推進

花粉を確実に減らすため、都と（公財）東京都農林水産振興財団は、多摩地域のスギ林を伐採して花粉の少ないスギ等を植栽する「花粉の少ない森づくり」を進めています。

こうした森づくりは、一朝一夕にはできないことから、私たちの子や孫の時代まで続く息の長い取組が必要です。

### 花粉飛散時期一斉PR

- ・東京の木の紙を使用したPR冊子の配布
- ・東京マラソンを活用したPR
- ・各種イベントでのPRブースの設置
- ・駅でのポスター掲示
- ・箸づくりイベントの開催



### 企業の森

- ・平成25年度末現在で21件の協定締結
- ・イベント（植栽・下刈等）の実施

### 箸づくり体験

- ・小中学校にて、授業の一環として多摩産材の箸づくりを実施



### 花粉の少ない森づくり募金

- ・募金を「花粉発生源のスギの伐採」と「花粉の少ないスギへの植替え」の事業費に充当

### 森づくり支援倶楽部

- ・メールマガジン配信
- ・会報誌の発行
- ・森林整備事業への協力

## 東京都農林総合研究センターの取組

東京都農林総合研究センターでは、花粉発生源対策苗木の供給・実用化や、シカによる森林被害の軽減など、都の事業を支える試験研究を行っています。

### ● 花粉発生源対策苗木の研究

現在生産している花粉の少ないスギに加え、生長がよく形質も優れた無花粉スギの開発と、花粉の少ないヒノキの実用化に取り組んでいます。

〈無花粉スギの苗木〉



### ● シカと共存するための技術開発

被害対策技術の開発に加え、生息域が拡大しているシカの生態や行動範囲等の調査により、シカの動態を把握することで森林被害の軽減を目指しています。

### ● 森林整備手法の研究

確実に広葉樹林化や針広混交林化が図れる森林整備手法を研究しています。